

# 「地域におけるこれからの企業経営」

シンポジウム「日本人は日本列島でどう生きるのか」要旨 2013年3月17日  
中小企業家同友会全国協議会・専務幹事：松井清充

はじめに（世界の常識は、革新は地方から、そして中小企業から）

## 1、時代変化と地域の危機

- ①グローバル循環に傾斜する日本経済（海外現地生産が基本で、どこで作っても構わないというモノづくりが大問題）
- ②デジタルで負け続ける日本の輸出型大企業（「メイド・イン・ジャパン」から「メイド・バイ・ジャパン」が負け続けている原因）
- ③日本のビジネスモデルの崩壊（現在は低価格・低品質・低機能が世界の主役、原料高の製品安が世界中に、貧困率の上昇）
- ④縮小する日本経済（人間・資源・顧客・お金が減っています、さらに日本だけ企業減少）
- ⑤地域の危機（地域経済の悪循環、人口減少の加速で「限界集落」「限界自治体」の増加）

## 2、物の豊かさから心の豊かさ追求の時代へ

- ①物から心の豊かさ求める時代変化（本人も求めているものが分からない時代、今ある地域資源に付加価値を付ける）
- ②物の豊かさの追究が、豊かさを追究できない原因を作り出している（文化生活ではなく、生活文化を作る。生産条件が前提から公害・温暖化・原発問題が、生存条件の追求へ）
- ③中小企業こそ病根を根治できる（大量生産は生産性の低い経済、今は環境・地域にやさしい経済をつくりだすこと）

## 3、歴史から学ぶ日本の力

- ①モノづくり日本のもと（商いの原点は三方よしで世間よしが大事、自助・共助・商助の理念、16世紀日本は資源が少ないから加工の力をつくりだした）
- ②過去唯一経済成長がとまった江戸時代に学ばば（豊かな金のかからない文化と各藩での名産品を作り出した歴史）
- ③日本人の力とは（自分の為でなく、「後世のために」と「地域がよくなるため」であり「地域や他も良くしないと自分も良くなれない」との人間づくりの力）

## 4、地域の未来を担うのは

- ①グローバル循環と地域循環の調和が求められる（地域でお金が回る仕組みと外からお金を稼ぐ経済との調和が必要、中小企業にとって地域は企業活動の中心）
- ②地域に根ざした物づくりは中小企業に適した分野（国内資源を生かすべき「食」と「住」の分野を再構築し地域内循環力を高めていくことです。）
- ③循環型経済を担うのは、多くは中小企業です（人をつくる中小企業が地域をつくる存在であった。）
- ④文明型から文化型経済へ（物の豊かさの追求の「文明型」から心の豊かさを追求する「文化型」に）

おわりに（人間の復興が地域の復興）